AGC レポート
山岳地理クラブ会報

VOL　47

発行 2011 年 5 月 25 日
日本山岳会　山岳地理クラブ
URL●www.jac.or.jp/doukoukai/

三県県境めぐり

今井秀正

関東に住む私たちになじみがある雲取山は一都二県、甲武信ｹ岳は三県の県境になっていて、山頂付近にはそれぞれの県がそれなりの考えで建てた山頂標識があることはご存知のことと思います。雲取山では三角点が山頂の一番北にあって、隣に東京都の標識があり、その南に埼玉県の標識、そして避難小屋があり、さらに南の三角点からはずっと離れたところに山梨県のそれがぽつんと寂しく建てられています。山梨県には南ｱﾙﾌﾟｽの高山が沢山ありますから、標高２０１７mではこの程度なのでしょうか。一方、東京都では最高峰であるからか、東京の標識が一番背が高く、立派といえるかもしれません。甲武信ｹ岳の埼玉県の標識は大変立派だったことを思い出しますが、甲武信はすぐ北の一等三角点の三宝山２４８３mより１０m弱低いとはいえ、埼玉県の最高峰に順ずるからと思われます。

東京都標識(上)埼玉県標識(右)

それでは日本中で三県が陸地で接していて、各県が競うような標識が期待できるところがいくつあるのかと興味がわき、gsi の２．５万分の１地図で調べてみました。北海道、佐賀、長崎、沖縄以外の都府県に４４地点と、和歌山県が三重県と奈良県の間に飛び地を二つ持っていることからプラス４地点で、合計４８地点ということになるようです。そのうち、川にある１１地点と田園地帯にある１地点、丘陵地帯の２地点、稜線の鞍部にある１地点を除くと３３地点は山頂か稜線上のﾋﾟｰｸにあり、山頂標識が期待できそうです。そして地点名は、まさにそれらしく「三国岳」が4、「三国山」6、「三国境」1で合計１１の「三国」がありましたが、四国の三傍示山も３県が接することを意味するのではないでしょうか。そのほかの「三」を含む地点は三峰岳、三ﾉ峰、そして北ｱﾙﾌﾟｽの三俣蓮華岳がありますが、三県や昔の国の境という意味からではなさそうです。gsi の地図では無名の地点も１０ほどありましたが、ﾊｲｷﾝｸﾞ地図などで調べると三のついた名で呼ばれているものがまだありそうです。三県県境が三角点付近にあるものは８地点にすぎないのは意外でしたが、行政の境界と三角点は直接関係がありませんから、そんなものか、というところです。こうしてみると雲取や甲武信のような県境は３０地点以上あるわけですから、まず「三国」のつく山を目指して各県の頂上標識に対する「思い」を見るというのも一つのテーマになりそうです。４つの三国岳のうちの３つが滋賀県に集中しているのも興味があるところですが、残るひとつは山形、福島、新潟県境の三国岳１６４４mです。そして６つの三国“山”の方は福岡、大分、熊本の三国山９９４mで九州に１つ、中国地方に２つ、関東中部に３つありますが、近畿、東北にはありません。代わりに“岳”が近畿に3、東北に1あることになります。岳と山は色々な解釈があるようですが、地域での違いというものもあるのでしょうか。２．５万分の一の地図では東京の私たちには馴染みの陣馬山北西の三国山は表記されていませんが、関東の“山”の仲間に入ることになります。一度ゆっくり調べてみたいものです。以上

山梨県標識

地理クラブ

片野スミ子

平成２２年１１月２５日の朝日新聞に「相模野基線、土木遺産に近代測量発祥の地座間市ひばりが丘と相模原市麻溝台の三角点結ぶ」という見出しの記事が載っていた。

土木学会が社会へのアッピールや町づくりの活用を目的に２０００年度より幕末から昭和２０年代の土木構造物を対象に選んでいるそうで今年度は横浜市の明治初期に開削した石済み護岸の堀割川と相模野基線が選ばれたそうです。

座間市には基線の南端点と中間点が、相模原市麻溝台に北端点が設置されドイツから取り入れた近代測量技術で明治１５年(１８８２年)当時の軍の参謀本部測量課により５２０９.９６９７mを基線と定め全国の三角点が整備され、大正１５年（１９２５年）に地図が完成されたと書かれていました。

我が座間市にある基線から西に延びる厚木市の鳶尾山山頂に一等三角点があります。そのあたりは里山で鳶尾山と八管山から成っており、鳶尾山は厚木市で、八管山は愛川町です。しかし三角点は愛川町で管理されているとのことです。

春には多くの人たちが桜を愛でに鳶尾山に登り、夏には子供たちが八管山でアスレチックや水の広場で遊んでいます。秋には木々も色づき桜の葉も紅を濃くします。私も時々一人で三角点に会いに出かけます。それを山歩と名付けています。人々には山頂の三角点はあって当たり前の風景なのでしょう無関心に皆通り過ぎます　２００１年5月26日に地理クラブでその三角点を訪れた時は愛川町立中津川小学校の校庭の片隅を仮の住まいとして四隅に石を配し、中央に１８センチ角柱の標石が埋め

られていました。
　国土地理院に保管されていた明治の標石が３３年間の避難暮らしと約２年間の地下暮らしからやっと今は桜の名所となっている故郷の鳶尾山に戻ったのは２００４年３月のことでした
４月に登った時、三角点は私は本物の標石ですよ、といっているように標柱の下の方に右から一等三角点と表してありました。
１２月１１日座間市内にあるサニープレイス座間に於いて基線の顕彰式が行われます　座間市長、遠藤三紀夫氏は、我が市にとっては貴重な遺産になる、観光的にも効果があり、しっかり伝えていきたいとかたられたとか　しかし南端点はある医院の玄関先だったか、裏の入口に位置していたように記憶してるで観光てきにはちょっと思われます。
　我が座間市内に基線があり、基線に通ずる一等三角点まで山歩できる距離にある我が家である。
　基線の顕彰を誇りと感じられた原点は地理クラブでは、と思いを強くしています。

私の山岳地理クラブ

高橋素子

　私が日本山岳会に入会したのがちょうど 2000 年　この年に地理クラブができてもう 10 年を迎えようとしている。
地図も読めない私がなんで山岳地理クラブ　三角点があるぐらいは知っていた私ですが、興味も何もなく一等・二等・三等・四等三角点に区別されている意味すら知らなかった私です・まして沖縄にまだ五等三角点があるなんて最近やっと知りました。
入会したての頃は、周りがベテランさんばかりだし、会社の帰りに例会に出席することがとても億劫なことに感じていました。なんだか一人ぼっちの様な、場違いな所にいるような孤独感を抱いていました。そんな時に又会長から例会のお誘いの電話などをいただき、やっとここまで継続することができました。
何時ぐらいだったでしょうか、段々と皆さんと顔なじみになり、例会に出席しなくてはと思い始め、地理クラブの山行にも積極的に参加するようになりました。今思うには、前任者より会計係を引き継ぎ、何かと皆さんと話す機会が多くなってやっと自分の中では打ち解けたように思います。普通に生活していたのでは出会えないようなステキなユニークなそしてとても楽しい方々に出会えて、手取り足取りやさしく指導していただき感謝しています。
　今の私は山行の時は必ず拡大地図とコンパスを持っていくようになりました。コンパスの凄さを実感し、自分の変化にも喜んでいます。　皆さんから教えてもらうばかりで何もできない私ですが、これからも会計係ぐらいは頑張ってお役に立っていこうと思っています
そしてもし私のような不安いっぱいで入会してくる人がいるならば、「大丈夫、何もわからなくたって皆と話して、飲んで、山に登って、ワイワイしていたら何だか仲間に入れてもらえたよ。」と教えてあげたいです。

行ってきました　**中山道･和田峠越え**

近藤善則

　中山道による中央分水嶺横断の第二弾！　黒曜石で有名な和田峠越えである。現在は車で簡単に峠を訪ねることができ、ビーナスラインが美ヶ原と霧が峰を結んでいるので、わざわざ徒歩で峠まで歩く族はやはり中山道歩きを実践している者だけだろう。前回の碓氷峠を越え、軽井沢から、沓掛宿、追分宿、小田井宿、岩村田宿、塩名田宿、八幡宿、望月宿、芦田宿、長久保宿を経てようやく和田宿にやってきたのだ。江戸から数えて 28 番目の宿。まだ半分には達していないが、信州トライアングルのベースになる一辺で、佳境に入っているといえよう。
　佐久平から次第に山間部にさしかかり、芦田宿を過ぎると笠取峠を越えるが、この峠への松並木の傍に知人が経営している農場があり、八重原から比較的近いので何回となく訪れたことがあった。歴史好きの知人はさかんに信玄の信濃攻めの話をしていたようだが、当時あまり関心がなく、記憶の底にかすかに残っていた糸を手繰り寄せたのか、和田について先ず和田城の跡に行ってみることを思いついた。城跡は宿場の北側に連なる小高い山にあり、ちょっとしたハイキングコースになっているようだ。山への入口に信定寺がある。曹洞宗の寺だ。和田城主は大井信定、文字通り城主の菩提寺なのだ。大井氏は武田信玄の信濃攻めの際、村上義清勢の間にあって、武田勢に滅ぼされたということだが、そのあたりの仔細を知人が話していたものだったのだろう。今は亡き知人にもう少し詳しく聞いておくべきだったと悔やまれる。

ゴミの斜面

　城を後にし、男女倉の分岐をすぎて、登山道に入ると、静かな樹林の中の山道を想像していたが、自動車道がすぐ近くを走り、エンジンの音が意外に響いて、騒々しい。また途中何箇所か、車から放り投げたと思われるゴミが斜面に散らがり、中には粗大ごみも混ざっていてせっかくの景観が台無しになっている個所がある。見苦しい限りだ。
峠の手前、東餅屋で本日の宿（本亭旅館の紹介、姫木平のペンション･サイレントスノー）の迎えの車を待ちながら、ドライブインの主人に和田峠の興味深い話を聞くことができ、、さらにペンションのオーナー山本一雄氏の情報により、より詳しく情報が得られた。
　翌日、峠を越え下諏訪へ。木曽路が間近だ　（参加者：片野スミ子、近藤善則）

訂正のおねがい

前号 VOL-46 の北野忠彦 「三角点方位測定と GPS データ」　の文中に訂正があります。
･1ﾍﾟｰｼﾞ左 27 行「今回のレポートは･･･述べる。」 3 行削除
*･1ﾍﾟｰｼﾞ左 30 行～右 2 行*まで　下記内容に差替え

この約 10 年の間に測定した点は、重複した点を除くと 173 点と少ないが、N が 117 点と全体の 68%を占めた。次いで NE が 26 点で 15%、NE が 11 点 6%、残り 19 点が 5 方位に分散した。メモの中には方位が記入されていないものも多く、記入漏れと思われ、これらをきちんと記録しておけば、点数はもう少し増えていたのだが、なお、表にある 2009 年の小仏城山の W は記入ミスと思われる。また同一点でも、測定時により 2°から 4°位の誤差がかなりの点で見られるが、この程度の誤差は SILVA コンパスで測定する以上はやむをえないのかもしれない。

･1ﾍﾟｰｼﾞ右 9 行「9.11 テロ後の NASA の対応･･･」→「9.11 テロ後の米軍による対応･･･」
なお差し替え部分ならびに測定データは AGC ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞに掲載いたしますので、参照ください

お　知　ら　せ

◆次回の例会

日時　２０１１年6月9日（木）　18：30 から
於：山岳会　ルーム
テーマ：山行報告、山行計画　ほか

AGC レポート　vol-47　2011 年 5 月 25 日発行
発行：日本山岳会・山岳地理クラブ（代表・北野忠彦）
〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-4 日本山岳会　気付
TEL　03-3261-4433　　FAX　03-3261-4441
編集担当：近藤　　E-mail：hikarikon@nifty.com